

fure-fure





■ 各学年の大学生生活

■ 1回生 ■

入学式から3カ月が過ぎました。90分の授業で、集中力が途絶える学生もいましたが、徐々に授業の長さにも慣れて、看護に必要な専門基礎科目を学び、興味・関心が高まってきているようです。フィジカルアセスメントの演習では血圧測定に取り組みました。真新しい自分の聴診器を使って、悪戦苦闘しながら「上手く測れた」「聴こえなかった」など、技術とともに患者さんへの説明や配慮の仕方などを学び始めています。初めてのひとり暮らしをしている学生は、当初、生活に戸惑ったり、帰宅後は寂しかったりしていましたが、友だちもでき、徐々に生活にも慣れてきたようです。ボランティアやサークル活動、アルバイトなど、授業以外の活動の幅も広がっており、大学生活を楽しんでいます。



■ 2回生 ■



4月は新入生とのバスハイクに行きました。雨のため、野外でのバーベキューやレクリエーションをやめ、ゲームなどで大いに盛り上がりました。企画委員を中心に学年全体で協力し、新入生が早く大学に親しめるようにと考えた計画が実を結んだ一日でした。

学業では、看護に関する専門的な講義が増え、課題や試験勉強に取り組む日々を過ごしています。その中のひとつ『看護過程論』では、看護者が対象の情報を分析・統合して看護計画を立てるという、看護する上で基本となる一連の過程について学んでいます。普段は明るい2回生ですが、初めて触れる方法論に頭を悩ませ、その過程で次々と出てくる疑問に、「終わりがみえない」「果たしてできるようになるだろうか」と話しながら、一生懸命前に進んでいます。



■ 3回生 ■

6月18日（土）、3回生では「保健医療系就職ガイダンス」が開催されました。これは、将来の進路を具体的に考えることを目的とした会です。まず、高知医療センター看護局長より、臨床の場で求められる看護師について、教員からは、就職後のキャリアアップについて、お話しいただきました。また現在、看護師・保健師・助産師・養護教諭として活躍している先輩には、今の職種を選択した決め手等について、学生からの質問に具体的にお答えいただきました。学生は、この会を主体的に運営し、熱心に話を聞いていました。自分の将来像を描く手がかりをつかめたようです。



看護師・保健師・助産師・養護教諭として活躍する先輩方

■ 4回生 ■



平成28年6月14日（火）南裕子学長より、「看護学を学ぶ者から看護学を学び続ける者へ－プロフェッショナルへの道を歩む4回生へのメッセージ－」をテーマに特別講義が行われました。自己の目指すキャリアデザインと照らし合わせ、「自分のやりたい看護は何か」「夢を実現するためにはどのような道があるのか」模索する機会となりました。また、大学教育のなかで看護を学ぶことの意味について考え、「オキュペーションでなくプロフェッショナルであれ」の言葉をもとに、一人ひとりが将来のビジョンを描き、看護の専門職として学び続けることの重要性を実感しました。

平成28年6月14日（火）南裕子学長より、「看護学を学ぶ者から看護学を学び続ける者へ－プロフェッショナルへの道を歩む4回生へのメッセージ－」をテーマに特別講義が行われました。自己の目指すキャリアデザインと照らし合わせ、「自分のやりたい看護は何か」「夢を実現するためにはどのような道があるのか」



学生部長 森下 安子



今年度、学生部長として、学生さん一人ひとりが安全でより豊かな学生生活を送ることができるよう、経済的支援、健康支援、就職支援、課外活動支援などの支援内容・体制の充実に取り組んでいます。例えば、本学では、経済的支援として、一定の成績を納め、かつ一定の家計基準の学生さんを対象に、全額、あるいは半額免除となる授業料免除制度があります。また、年度途中で特別な事情が生じた場合にも、対象になることがありますので、その時は、学生・就職支援課にご相談ください。今年度からは、成績優秀者の表彰制度が開始となり、例えば、看護学部では2回生以上の各学年1名が授業料を全額免除、1名が半額免除となりました。この制度により、各学生さんがより学業に頑張っていただければと思っています。

また、平成29年3月に池キャンパス敷地内に「池国際寮（仮称）」が完成することになりました。池キャンパスでは、現在、留学生が4人在学し、各学部で学びを深めています。留学生と共に生活を送り、多文化の理解を深めることで、相互に国際感覚を養うことができるよう、寮の管理や運営体制について現在検討しています。寮の詳細情報は、今後大学のホームページで随時公表する予定です。

学生部長として、池キャンパスの学生さんについて心配していることは、交通事故の多さです。交通安全講習会なども開催しておりますが、事故の件数が減りません。学生さんが被害にあうだけでなく、加害者にもなる事故も発生しています。交通事故の怪我の状況で、学習に支障が出る、4年間での卒業が困難になるなど、これからの人生設計に大きな影響が出る場合があります。また、看護学部の学生さんの場合、交通事項をおこした場合、看護師保健師の国家試験に合格しても免許の発行が遅れたり、免許がもらえなくなったりします。事故の発生状況を分析し、各学部で、学年ごとに事故の発生が多い時期を明らかにし、その時期に合わせ交通安全講習会を開催するなど、取り組みを強化しておりますが、保護者の皆様からも、学生さんへの安全への注意喚起の声かけをお願い申し上げます。

本学では、2年に1度、学生さんを対象に「高知県立大学学生生活実態及びニーズ調査」を実施しており、今年が調査の実施年です。回答いただきました調査結果を分析し、学生さんへの支援を改善・充実に教職員一同で努力して取り組んでいきますが、保護者の皆様も、学生生活についてご質問・ご意見がございましたら、fure-fureに記載しているメールや大学への電話等でご意見を頂ければ幸いです。

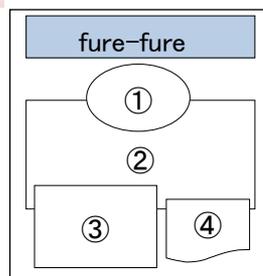
看護学部の活動：実習病院との連携 —高知医療センターとの連携—

看護学部では実習病院と定期的に意見交換会をもつなど連携を図る努力をしていますが、特に池キャンパスに隣接する高知医療センターとの間では、医療・健康・福祉・栄養分野での交流連携を推進し、相互の教育・研究を発展させ地域社会に貢献することを目的に、施設間で包括的連携協定を締結しており、強い連携体制が築かれています。そのため、臨地実習で丁寧な指導が受けられるだけでなく、学内の講義や研修でも医師や看護師から豊富な臨床経験に基づく生きた知識や最新の情報を得ることができます。また、互いの施設の講演会等に参加できるようになっており、近年は、高知医療センターの看護師さんたちの語り場「Nursing Café」に学生が参加する機会もあり、将来に向けたイメージづくりやキャリアデザインをするのに役立っています。さらに、研究やボランティアのフィールドとしてもご協力いただいております、学生は専門職としての基盤をつくる貴重な経験をさせていただいています。

ボランティアでは、入院案内、小児フロアでの見守り、鉢植えの手入れなどをしています。平成28年3月には、看護学部の2回生3名がボランティアに主体的かつ継続的に取り組む姿勢が評価され、医療センターから特別表彰されました。表彰された学生は、「週1回無心になって病院の玄関掃除をすることで、自分自身が浄化された。挨拶を交わしたり、花のことを教えていただいたり、いろいろな人と関われるのは楽しい。ボランティアをすることで、大学の中だけではない交流の輪が広がった」と語っていました。



表紙の写真



- ①1回生入学式
- ②1回生・2回生バスハイク
- ③イタリアの大学生との交流
- ④卒業生による4回生の就職相談



サークル活動の紹介

■太鼓部■



私達は高知県立大学太鼓部です。現在1回生4名、2回生6名、3回生6名、4回生9名の計25名で活動しています。週に3回練習を行い、地域のお祭りや学校行事、イベント等で演奏させていただいています。力強い和太鼓の音を通して、演奏を聴いてくださる方々に感動を届けられたらという思いで日々練習に取り組んでいます。渋いイメージのある和太鼓ですが、力強い音と繊細な表現力を多くの人に知っていただきたいです。 2回生 山下未菜美



■ソフトテニス部■

ソフトテニス部は3年前に発足しました。週1回東部総合運動場で練習をしています。部員には大会で活躍する人もいれば、試合には出ず練習だけを楽しんでいる人など様々です。10名のメンバーが和気あいあいと練習をしています。昨年度は四国インカレ準優勝、中国四国九州三地区学生大会でベスト4と好成績を残しました。今年は高知県代表として国体にも出場する予定です。今後もテニスを通して出会えた人とのつながりを大切にしていきたいです。 3回生 明神未来

■茶道部■

私たち、裏千家茶道部(池キャンパス)は池キャンパスの学生会館1階和室で毎週月曜日に和気あいあいと活動しています。高知県立大学の学校行事である紅葉祭では、お茶会を開きます。学内の先生方、学生、地域の方々にお茶とお菓子を召し上がっていただいています。活動を通してお点前を覚えることができます。また、青年部としてリハーサルお茶会や茶道研修会などに参加し、地域でも活動しています。今後も毎週のお稽古に精進して、作法を身につけていきたいです。 2回生 佐伯実穂 茂田友里花



教育の工夫 『批判的思考(Critical thinking)を育む～データとの対話のすすめ』



看護研究をとおして、大切にしていることのひとつが、理論や既存の知識体系を基盤としながら物事を論理的に捉え、判断する科学的思考を身に付けることです。そして、既存の知識や現象の捉えをそのまま受け入れるのではなく、本当にそうだろうか、どのような意味があるのだろうか、何を表しているのだろうかと問いを発し、自問しながらみる視方—批判的思考(Critical thinking)を学んでいってほしいと思っています。批判的思考とは、物事を論理的に考えることであり、自分自身の思考を吟味することです。それには常に問い続ける姿勢、最新の情報を探索していく姿勢が大切だと考えます。自らの問いを立て看護研究に取り組む中で、様々な文献に示された知識体系や結果として導かれたデータと対話し、紐解きながらその意味を捉え、新たな見方を創ってほしいと思っています。(池添志乃)

■専門基礎グループ■

これまでの卒業研究は質的研究がほとんどでしたが、近年、量的研究も行われるようになってきました。私たちも量的研究、とくに実験的研究を行いたくて、専門基礎グループを選びました。

専門基礎グループでは特定の看護技術を選んで、なぜその看護技術が必要なのか、どうすればより良い看護技術になるのか、その看護技術をどのような条件で実施するのが適切なのか…など、看護技術をエビデンスのあるものにしようとして研究を行っています。また、非侵襲的な測定機器を使うことも特徴になっています。

4回生 岩本幸大 太田濡 栗林奈菜 寺本有希 三宅美紀



[ニュースレターの名前の意味]fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp